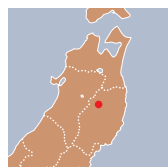


# チャグチャグ馬コの鈴の音

岩手県滝沢村



▲鬼越蒼前神社の境内に入る馬。鬼越蒼前神社には、農業の神であり馬の守り神でもある蒼前様が祀られており、駒形神社とも呼ばれている。



▲境内の広場で装いを整える少女と馬。馬の首には狼よけに用いられていたドーナツ型の鳴輪が下げられ、大小100もの鈴が付いた、重さ60kgに及ぶ装束を身に着けている。

盛岡市街から西に約8km。岩手山の東の麓にある滝沢村。この地方は古くから馬の名産地で、源義経や佐々木高綱が乗った馬も「南部駒」だったといわれている。江戸時代までは軍馬が主だったが、寛政年間(1789~1800年)ごろから農家が農耕馬として飼うようになり、人の住む母屋と馬のいる厩がL字型でつながる「南部曲り家」で生活をともにするほど馬は大事にされた。やがて馬の無病息災を祈願するため農民が馬を引き、蒼前(駒形)神社に参る「蒼前詣」の風習が生まれた。その蒼前詣でを起源とした祭りが「チャグチャグ馬コ」である。

祭りの日のみ運行されている無料シャトルバスに乗り、盛岡駅前から滝沢村の鬼越蒼前神社へ向かった。6時50分発のバスの席はすでに乗客で埋まっていた。市街を抜けると田植えを終え



▲家族に引かれる馬。祭りには家族ぐるみで参加することが多く、馬とともに無病息災、家内安全を祈願する。



▲多くの人でにぎわう参詣風景。参拝後、馬たちは一時境内の広場に集まり、9時30分に神社を1頭ずつ出発する。

た緑鮮やかな稲田が広がり、視界の先には標高2,038mの岩手山がそびえていた。途中、これから神社におもむくのであろう、庭で馬に華やかな装束を着せている農家を数軒通り過ぎた。

盛岡駅から20分余り。着いたときは神社の鳥居の前にはすでに数十台の馬運搬車が並び、周辺は馬の装束を整えたり、子供に化粧を施したり、祭りの準備でざわめいていた。馬のいななきや蹄の音も聞こえ、馬が地面を踏むたびに、装束に付けられている鈴や首に吊るされた鳴輪が軽やかに鳴っていた。祭りの名称は、その音が「チャグチャグ」と聞こえることから付けられたという。馬たちは飼い主に引かれ神社に参詣したあと、境内の広場に集まった。鈴の音も徐々に増え、祭りに参



▲神社を出てすぐ、田園のなかを行進する色鮮やかな装束を身にまとった馬たち。チャグチャグ馬コは、その装束を含め、1978年に国から「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選定されている。

加する97頭の馬がそろったところには、大きな響きになっていた。

馬たちは9時30分に神社を出て、盛岡の八幡宮までの15kmの道のりを練り歩く。あでやかに飾り付けられた馬の姿とさまざまな鈴の音は、村の田園風景のなかで際立つ。鈴が聞こえたからだろうか、家から出てきた地元の住人がその行列を見守っていた。

蒼前詣では、以前は農耕作業で疲労した馬の慰安のために端午の節句(旧暦5月5日)に行なわれ、その日1日は



▲主役は馬だけではない。乗り手にとっても年に1度の晴れ舞台となる。



▲田園地帯を抜け、住宅街に入ると、鈴の音とともに蹄鉄の響きも大きくなる。およそ100頭の馬の列の長さは、ときには500mに達する。街中を練り歩く馬の姿は壮観だ。

境内で過ごしたという。その後、旧暦5月5日が田植えの最盛期と重なるようになったため、1958(昭和33)年から新暦6月15日に変更された。多くの人に参加し、見てもらえるよう毎年6月の第2土曜日に開かれるようになったのは2001(平成13)年からだ。

8年目の今年も人出でにぎわい、なかには沿道から馬に声をかける人もいて、乗り手の子供や女性が手を振って応えていた。乗り手の多くは馬主の子や孫だが、40人ほど募集したところ、全国から200の応募があったという。馬主もさまざまで、岩手をはじめ、秋田や宮城、福島から参加する人もいる。

いまでもそ100頭もの馬が参加するチャグチャグ馬コだが、そのほとんどは実際の農作業にはかかわっていない。

高度成長期以降は農作業の機械化が進み、農耕馬の数が激減したからだ。

さわやかな鈴の音とともに行列が盛岡市街に入ると、街がにわかに華やいだ。鮮やかな装束の色彩は人々を活気づける。かつて蒼前詣でを目にした石川啄木は日記に残し、宮沢賢治は短歌に詠んだ。岩手の農家に不可欠な馬の疲れをいたわるための風習だったチャグチャグ馬コだが、現在、いやされているのはむしろ人間のほうである。

- よく聞こえる時期  
毎年6月第2土曜日の午前6時から11時ごろまで。鬼越蒼前神社(駒形神社)とその周辺。
- 問い合わせ先  
滝沢村役場商工観光課 ☎019(684)2111(代)

※参考文献：環境省大気保全局大気生活環境室発行『残したい日本の音風景100選』パンフレット